

永井 利明 議員

無会派

# 本市の小中学校の人的教育環境の状況は？

問

- (1) 小・中学校勤務の方で市単独採用の職種及び人数は。
- (2) その経費は。
- (3) 市単独職員の採用人数は、年々ふえていると思われるが、これまでの推移は。
- (4) 「支援員」という職種の職務内容は。
- (5) 学校支援ボランティアができた経緯、法的位置、ボランティアの種類は。
- (6) 学校支援ボランティアの中の部活動支援とは、外部コーチと理解してよいか。

さまざまな職種を配置して人的教育環境の整備に努めている

答 教育部長

- (1) 特別非常勤講師16人、特別支援教育支援員25人、外国人日本語指導員5人、学校図書事務員4人、学校用務員6人。
- (2) 今年度予算額は、合計で4千730万円。
- (3) 特別支援教育支援員は、26年度19人、27年度23人、28年度25人。
- (4) 外国人日本語指導員は、26・27年度は6人、28年度は5人。
- (5) 学校図書事務員は、26年度5人、27・28年度は4人。
- (6) 特別支援教育支援員は、食事、排せつ、教室移動の補助など学校における日常生活上の介助や、学習障がいの子童・生徒に対する学習支援、注意欠陥・多動性障がいの児童・生徒に対する安全確保などの学習活動上のサポートを行っていただいている。
- (5) 18年の教育基本法の改正時に、同法第13条において、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連帯協力」が規定され、学校教育が多

様な課題を抱える中で、地域ぐるみでさまざまな形で学校を支援していくことが求められるようになった。支援内容は、教科の授業支援や部活動、体験学習、学校行事の支援などの特別活動支援、心身障がい児への対応・介助などの児童・生徒生活支援、学校設備の補修・修理、樹木の手入れなど教育環境整備支援、登下校の付き添い、通学路の巡回などの学校安全支援。

問

## 児童館・児童クラブの物的環境整備を！

- (1) 児童館と児童クラブの違い、その経緯は。
- (2) 運営状況、子どもたちの過ごし方、問題点、トラブルは。
- (3) 物的環境において、手

洗い場など改善される余地はあると思うが、どうか。

(4) スタッフへの研修は実施しているか。

(5) 放課後学習支援クラブは、どんなもので、今後設置していく計画があるのか。

## 今年度は桜児童館のトイレ洋式化を実施予定

答 民生部長

- (1) 児童館は、児童福祉法第40条に定められた児童福祉施設で、児童クラブは学童保育とも呼ばれ、児童福祉法第6条の3第2項の放課後児童健全育成事業に基づき実施をされている。児童館ができた経緯は、健全な遊びを提供し、健全育成活動を行う場として全国的に建てられるようになった。児童クラブのできた経緯は、ひとり親家庭、夫婦共働き家庭の増加により、いわゆる鍵っ子が増加したことから、放課後に児童を育成していく必要が高まり、できたものである。
- (2) 児童館は、月曜日から

土曜日まで、午前9時30分から午後6時まで開館をしており、放課後には児童に工作や友達同士での遊びを通じて自主性や社会性及び創造性を身につける場所となっている。

児童クラブは、小学校1年生から6年生が対象で、宿題をしたり、おやつを食べて友達同士で談笑したりして楽しんでいる。

問題点やトラブルは現在特にない。

(3) 本年は、桜児童館のトイレを洋式に改修していく。

(4) スタッフル全員が放課後児童支援員の講習を31年度末までに受講ができるように毎年計画的に派遣している。

答 教育部長

- (5) 厚生労働省と文部科学省が連携して放課後子ども総合プランを策定し、その中の実施事業の一つである。今後の設置計画は、児童館の運営や児童クラブの活動を充実させることから、現段階では考えていない。